

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700346		
法人名	株式会社エクセレントケアシステム		
事業所名	グループホームえくせれんと鴨島		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原161番地2		
自己評価作成日	平成22年5月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip_infomationPublic.do?JCD=3671700346&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年6月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との連絡を密にとり、必要に応じて病院の受診や馴染みの店への外出を支援している。以前は外出の機会が少なく、行事やレクリエーション活動が十分とはいえなかったため、散歩や買い物などの外出の機会を多くつくるよう努めている。また、利用者の楽しみのひとつとなるようお花見やクリスマス会などを年間行事に取り入れ、家族にも参加してもらって交流を深めている。職員が責任と役割をもって業務に就けるようにレクリエーションや美化、食事、医療などの委員会を設置している。日々の食事は調理師免許を持つ職員が衛生的でバリエーションに富んだ食事を提供している。利用者が炊事や調理を手伝ってくれる時もあり、職員と楽しく食事作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から少し入った住宅地に位置し、田園が見渡せる静かな環境にある。管理者は、利用者ごとに担当を決めたり委員会を設置して、職員が役割と責任を持ちながらケアに取り組めるよう工夫している。市の広報紙や運営推進会議で情報を得て、地域の行事やイベントに参加したり近隣の方と親しく付き合うなど、地域とのつながりを大切にしている。子どもに見せる利用者の笑顔を見て、今後は学校との交流を実現したいと考えている。運営推進会議の議事録や毎日の状態を記録したお便りを毎月家族に送付し、連携を密に図っている。医療連携体制を整備し、利用者は自分らしくゆったりと穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住みなれた地域でやさしさとやすらぎの暮らしを自分らしくゆったり」という理念をつくり、共有スペースに掲示している。利用者が自分らしい生活を実現できるよう職員間で話し合っている。	地域密着型サービスとしての理念をつくっている。事業所内の壁に掲示して朝礼や全体会で唱和している。業務の中で職員間で確認し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とお中元やお歳暮のやり取りを行ったり、冠婚葬祭へ参加したりしている。また、日ごろから挨拶を交わし、日常的に交流している。事業所の駐車場を地域の方に開放することもある。	散歩時の挨拶等だけでなく、季節毎の挨拶をしたりお葬式に参列している。また、事業所の駐車場を開放したり、農作物を差し入れてもらって日常的に親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関先には、来訪者が社会福祉に関する情報や連絡先がわかるように資料を配置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の会議内容や文書と写真を活用し行事内容を報告している。出された意見はすぐに取り入れ運営に反映できるように努めている。運営推進会議の内容を家族全員に郵送している。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員等が参加し、2か月ごとに開催している。事業所の行事予定、職員研修、全体会議の報告等を行い意見交換し、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろから電話やメールで助言をもらっている。運営推進会議に毎回参加してもらったり、グループホーム連絡協議会では主体的に協力してもらっている。最新のプランニング方法を指導してもらっている。	運営推進会議に参加してもらっている。グループホーム連絡協議会に出席し、提出書類は直接窓口を持参するなど市の担当者とは連絡を密に取って協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて玄関を施錠している。利用者が出かけたときは止めるのではなく付きそよう心がけている。身体拘束についての勉強会を実施している。やむを得ず行なう場合には、家族の同意を得ている。	管理者と職員は身体拘束の内容と弊害について理解をしている。日中、時間を決めて玄関を施錠している。	全職員で開錠に向けた検討を継続し、自由な暮らしを支援されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回、勉強会を行なって、どのような内容が虐待となるのか学んでいる。不適切なケアをしないように事業所内に掲示し、虐待防止を念頭においている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度について勉強会を行い、資料を職員が閲覧できるように配置してある。関係者との話し合いや制度の活用は現在行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書の内容を十分に説明している。介護報酬改定時には改定要件を郵送し、本人および家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会で意見交換会を行い、家族や関係者が意見や要望を表せるようにしている。苦情受付窓口を設置している。	運営推進会議や家族会、面会時等に意見や要望等の情報交換を行い、検討記録を残して運営に反映させている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	稟議書で定期的に意見等を提出している。職員の全体会で発言の場を設けている。日常的に意見を聞き、職員の意見を最大限に尊重している。	管理者は職員が働き続けられる職場を目指し、日ごろから話しやすい態度で接している。毎月、会議を開催して意見を聞く機会を設けている。書面でも意見を出せるようにし、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規程から判断を行い、規程以上の人員配置を行っている。処遇改善交付金は公平な支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チャレンジシートの活用や介護技術基礎教育、その他の勉強会を実施している。研修会の受講内容を回覧したり介護実践研修の情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業へ参加している。グループホーム連絡協議会や他の事業所の運営推進会議へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をそのまま記入できる様式を使用してケアプランを作成している。センター方式を活用した基本情報の作成に取りかかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や職員の意見だけでなく、家族の要望を把握できるよう連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の体調や状態を考慮し、必要なサービスの内容を伝えている。家族等の状況により他の事業所のサービスへつなげ、申し込みや内容確認などの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除は職員だけが行うのではなくできる範囲で手伝ってもらっている。カレンダーの日付交換やエサやり、米とぎなど本人が興味を持てる役割を担ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が希望する時や必要な時に家族へ連絡し、話をしてもらっている。家族の協力を得て外出を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望する病院を受診できるよう支援している。電話の取り次ぎや手紙を出せるよう支援し、これまでの関係が途切れないよう努めている。	馴染みの理・美容院の利用やかかりつけ医の受診、親しい友人との交流、先祖のお墓参り等、家族と連絡や相談をしながら、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は部屋へ閉じこもることがないように、できるだけ共有空間で過ごせるように支援している。レクリエーションや共同での作業を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方の様子を伺う程度にとどまり相談や支援を行うことはできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで本人の思いや希望を引き出せるように質問している。	利用者ごとに担当職員を配置したり、市の指導を受けてセンター方式などを活用して一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを活用した情報収集を開始したところである。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケア記録、申し送り簿で状態を把握して、情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスの経過状況をそれぞれの担当職員が記録し、担当者会議で話し合っている。	計画作成者は、利用者それぞれの担当職員から本人と関係者などの意見や情報を得て、計画案を作成している。計画案をもとに家族から意見ももらって介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状態や要望に変化があった時や設定期間ごとの見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことや改善の提案などを共有ノートに記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡調整しながらニーズに柔軟に対応できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方に運営推進会議に参加してもらい、事業所運営について助言をしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療が週1回ある。必要に応じて、歯科や神経内科の医師の往診を受けられるようにしている。その他、希望や状況によって適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医療機関のほか、本人や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。希望や状況によってそのつど家族と連絡を取り、適切な医療を受けられるよう通院介助をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を月に120時間程度配置している。随時連絡をとる他に看護師への専用連絡簿を活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携を図り、必要な医療機関に連絡をとり円滑に入院や退院ができるように支援してもらっている。入院時も随時、容態の確認に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針を説明している。終末期のケアについては主治医の協力のもと、看護師も加わり家族への説明とケアの内容について話し合いを行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針にそった説明を行っている。状態に応じて家族や医療関係者と連携しながら方針を共有し、支援している。看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について学ぶ機会を設け、緊急事態に備えている。緊急連絡網を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消火避難訓練を実施している。運営推進会議で近所の協力を依頼している。	年2回、消防署の指導のもと利用者を変えた避難訓練を実施している。運営推進会議で実施報告を行い、地域の方へ協力を依頼している。職員は日ごろから火の元点検を行っている。食糧の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ていねいな対応を行うように、毎日の朝礼で唱和している。事業所独自の利用者権利擁護指針を掲示し、全体会の内容のひとつに取り入れ意識の統一化を図っている。	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、礼儀正しくていねいな対応とプライバシーの確保を徹底するよう、職員間で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式シートを活用して、本人のやりたいことや望むことを理解し、職員間で共有できるように取り組みを開始したところである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の都合によって十分に希望にそえない状況も見受けられている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服装を決めるようにしている。髪型がくずれたり、髭が伸びた状態がないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が、一緒の時間に同じ場所で食事をとっている。準備や片づけなどできることは手伝ってもらっている。	利用者の好みを聞き、献立に取り入れている。準備や片付けなどできることを手伝ってもらっている。食べやすさの工夫をして、職員と一緒に談笑しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録している。摂取量が少ない場合には状況に応じて対応を行い、栄養状態などは定期的に検査を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。状況に応じて歯科医師の往診や受診を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 ユニット I 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ、パットの使用は極力避けている。使用時も取り外す時間を決めてトイレでの排泄を行えるように支援している。	排泄パターンを把握して、さりげなくトイレ誘導をしている。利用者一人ひとりが気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄できるように飲食物に注意している。看護師と相談し、運動や必要最低限の下剤の使用で対応するように意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は利用者一人ひとりのペースに合わせた介助を行っている。決まった曜日の時間帯となっているため、スケジュールにとられない対応が必要である。	一人ひとりのペースに合わせた入浴支援が行われている。週3回、曜日や時間帯を決めての対応になっている。	利用者の入浴したい日や時間に合わせて入浴できるように支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中でのなるべく他の利用者等とふれ合う機会をつくっている。疲労が感じとられる場合や本人が望むときには休息をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用についての一覧を配付している。薬の変更や追加があった場合には、申し送り簿を活用して職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や日課をもって楽しく毎日過ごせるように散歩やマッサージ、編み物、読書など個別のレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画での外出以外に、買い物や散歩などの要望があればそのつど対応し、外出を支援している。	行事計画での外出以外に、買い物や散歩、馴染みの場所へのドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。管理者が市役所や同一法人の事業所などへ出かけるときに一緒に行くことがある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、少額のお金を所持している。多額の所持を希望される方には、本人の納得が得られるように家族と随時連絡をとって協力してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡をとりたいときには電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や絵を飾っている。十分な移動スペースを確保している。天窓があり太陽光が建物内に入るようになっている。中庭では季節の野菜や花を栽培している。	居間兼食堂は、ゆったりしたスペースがあり、椅子やソファ、テレビ、空気清浄器が配置されている。壁には利用者の作品や利用者と職員の写真を飾って、家庭的で温かみのある空間づくりを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごすことができる空間となるようにゆったりと座ることができるソファと座敷を設置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や大切にされていた品、仏壇などを持ち込んでいる。	使い慣れたソファや机、日ごろ利用する健康器具、マッサージ器具、仏壇等を持ち込み、その人らしく過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの歩行状態に合わせた移動補助具を使用している。使用にあたり不都合がないように事業所内の移動スペースの確保に努めている。			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住みなれた地域でやさしさとやすらぎの暮らしを自分らしくゆったり」という理念をつくり、共有スペースに掲示している。利用者が穏やかに毎日を過ごせるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々と気楽に行き来し、生活用品や食材をもらっている。冠婚葬祭に参加したり年間行事をともにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関先には、来訪者が社会福祉に関する情報や連絡先がわかるように資料を配置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の会議内容や文書と写真を活用し行事内容を報告している。出された意見はすぐに取り入れ運営に反映できるように努めている。運営推進会議の内容を家族全員に郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから電話やメールで助言をもらっている。運営推進会議に毎回参加してもらったり、グループホーム連絡協議会では主体的に協力してもらっている。最新のプランニング方法を指導してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて玄関を施錠している。利用者が出かけたいときは止めるのではなく付きそうよう心がけている。身体拘束についての勉強会を実施している。やむを得ず行なう場合には、家族の同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回、勉強会を行なって、どのような内容が虐待となるのか学んでいる。不適切なケアをしないように事業所内に掲示し、虐待防止を念頭においている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度について勉強会を行い、資料を職員が閲覧できるように配置してある。関係者との話し合いや制度の活用は現在行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書の内容を十分に説明している。介護報酬改定時には改定要件を郵送し、本人および家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会で意見交換会を行い、家族や関係者が意見や要望を表せるようにしている。苦情受付窓口を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	稟議書で定期的に意見等を提出している。職員の全体会で発言の場を設けている。日常的に意見を聞き、職員の意見を最大限に尊重している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規程から判断を行い、規程以上の人員配置を行っている。処遇改善交付金は公平な支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チャレンジシートの活用や介護技術基礎教育、その他の勉強会を実施している。研修会の受講内容を回覧したり介護実践研修の情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業へ参加している。グループホーム連絡協議会や他の事業所の運営推進会議へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をそのまま記入できる様式を使用したケアプランを作成している。センター方式を活用した基本情報の作成に取りかかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の意見を最大限尊重するように努めている。主治医の協力を得て、適切な医療が受けられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の体調や状態を考慮し、必要なサービスの内容を伝えている。家族等の状況により他の事業所のサービスへつなげ、申し込みや内容確認などの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除を一緒に行うようにしている。役割を担ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が希望する時や必要な時に家族へ連絡し、話をしてもらっている。家族の協力を得て外出を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	寺院へお参りに行ったり、買い物や散歩など行きたいところへ外出できるように支援している。電話の取り次ぎを行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は部屋へ閉じこもることがないように、できるだけ共有空間で過ごせるように支援している。レクリエーション活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方の様子を伺う程度にとどまり相談や支援を行うことはできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで本人の思いや希望を引き出せるように質問している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを活用した情報収集を開始したところである。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケア記録、申し送り簿で状態を把握して、情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスの経過状況をそれぞれの担当職員が記録し、担当者会議で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの担当職員が気づいたことや改善の提案などを共有ノートに記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ病院受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院での受診や買い物の際に馴染みの人から声をかけてもらっている。民生委員の方に運営推進会議に参加してもらい、事業所運営について助言をもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療が週1回ある。必要に応じて、歯科や神経内科の医師の往診を受けられるようにしている。その他、希望や状況によって適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を月に120時間程度配置している。随時連絡をとる他に看護師への専用連絡簿を活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携を図り、必要な医療機関に連絡をとり円滑に入院や退院ができるように支援してもらっている。入院時も随時、容態の確認に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針を説明している。終末期のケアについては主治医の協力のもと、看護師も加わり家族への説明とケアの内容について話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について学ぶ機会を設け、緊急事態に備えている。緊急連絡網を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消火避難訓練を実施している。運営推進会議で近所の協力を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ていねいな対応を行うように、毎日の朝礼で唱和している。事業所独自の利用者権利擁護指針を掲示し、全体会の内容のひとつに取り入れ意識の統一化を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式シートを活用して、本人のやりたいことや望むことを理解し、職員間で共有できるように取り組みを開始したところである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、早朝に起床して活動を開始する利用者もいるが、職員はその人のペースとしてとらえて対応をしている。業務の都合によって十分に希望にそえない状況も見受けられている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧など、利用者一人ひとりの身だしなみやおしゃれを見守りながら支援している。髪型がくずれたり、髭が伸びた状態がないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が、一緒の時間に同じ場所で食事をとっている。準備や片づけなどできることは手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録している。摂取量が少ない場合には状況に応じて対応を行い、栄養状態などは定期的に検査を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。状況に応じて歯科医師の往診や受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ、パットの使用は極力避けている。使用時も取り外す時間を決めてトイレでの排泄を行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄できるように飲食物に注意している。看護師と相談し、運動や必要最低限の下剤の使用で対応するように意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は利用者一人ひとりのペースに合わせた介助を行っている。決まった曜日の時間帯となっているため、スケジュールにとられない対応が必要である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中でなるべく他の利用者等とふれ合う機会をつくっている。疲労が感じとられる場合や本人が望むときには休息をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用についての一覧を配付している。薬の変更や追加があった場合には、申し送り簿を活用して職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や日課を持って楽しく毎日を過ごせるように写経や新聞の切り抜き、音楽鑑賞、散歩、買い物、マッサージなど個別のレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画での外出以外に、買い物や散歩などの要望があればそのつど対応し、外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、少額のお金を所持している。多額の所持を希望される方には、本人の納得が得られるように家族と随時連絡をとって協力してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡をとりたいときに電話をかけられるように支援している。携帯電話を所持している利用者がかけ間違いがないように見守っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や絵を飾っている。十分な移動スペースを確保している。天窗があり太陽光が建物内に入るようになっている。中庭では季節の野菜や花を栽培している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごすことができる空間となるようにゆったりと座ることができるソファと座敷を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使用していた物品を持って来てもらえるように家族に説明している。本人が使用していた机やソファを配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な利用者でも部屋からトイレまでの移動が安全に行えるように、夜間は歩行練習器具を手すり代わりにして使用している。		